

大平和弘研究員

桜の花が散って葉桜の季節になると、気になるのは毛虫。一般に嫌われがちな毛虫ですが、身近に見かける多くの毛虫は人体に無害なものも多く、種類によって体の形や模様、毛のつき方や動きなどが違って、観察してみると意外な発見があるものです。

今から260年以上前の江戸時代、日本各地に出没したとされる不思議な生き物を記した「姫国山海録（1762年）」という妖怪画集があります。その中に、「二頭虫」と題された毛虫のような妖怪が登場します。解説によれば、



形は毛虫に似てムカデではなく、体の前と後ろの両方に頭があるといえます。

果たしてこんな虫が実在するのか、人と自然の博物館で昆虫学を専門とする八木剛主任研究員に絵を見せて種の同定を依頼しました。すると、ササのような植物に付いていることや、模様・毛の付き方などから、「タケカレハ」の幼虫の可能性が高いという結果でした。

このように、一見してどちらが頭か分からない形をした毛虫は、決して珍しくないようで、鳥など

妖怪「二頭虫」（「姫国山海録」東北大学付属図書館所蔵）

二頭虫



の捕食者を視覚的にだまして、頭を一撃で攻撃されるリスクを回避する機能があると考えられます。妖怪「二頭虫」は、分類学や生態学などの学問が未文化であった当時、まさに頭が二つある生き物だと人間をだまして妖怪になった毛虫だったのです。

現在、スマートフォンですぐに撮影・検索ができ、交流サイト（SNS）で情報を拡散できる社会と

タケカレハの幼虫（八木剛主任研究員撮影）



なり、不思議な生き物の生態にだまされたり、見たことのない生き物を恐る恐る観察して手記に収め、あれこれ思考を巡らしたりすることはなくなってしまうたかもしれません。けれど、自然界には、まだまだ私たちが知らない不思議なモノ、コトであふれています。生き物たちが活発に活動するこれらの季節、自然の中に出かけて、自分だけの妖怪を探してみたいかがでしょうか。

ひとく
研究員
だより

毛虫の季節

自分だけの「妖怪」探しへ